

鹿児島県は、ウミガメ上陸頭数日本一です。

守ろう

ウミガメ

SAVE THE SEA TURTLE

鹿児島県ウミガメ保護条例

●ウミガメの捕獲及び卵の採取の禁止
鹿児島県ウミガメ保護条例では、ウミガメの捕獲及び卵の採取を禁止しています。このため、こういった行為を伴う調査・研究には、市町村長の許可が必要です。



ウミガメの産卵行動

①上陸(10分)

暗くなって波打ち際に接近したウミガメは、警戒心が強く、すぐには上陸しません。しばらくは波間にたどい、十分安全を確かめてから上陸します。砂浜が上がったら、しばらく口を砂につきたて、浜の様子を調べます。

上陸したら、少し歩いては頭を上にあげ、大きく息を吸った歩くといいことをくりかえしながら産卵場所を探します。

②穴掘り(20分～30分)

産卵場所が決まると、前後の足をつかって体が砂に沈むくらいの深さになるまで、砂をかきわけます。

次に後足を使って直径20～30cm、深さ50～60cm程の穴を掘ります。

③産卵(20分)

穴掘りが終わったら、穴のはしに、後足をおき10数秒おきに2～3個の割合で20分ほどかけて産卵します。卵の大きさはアカウミガメで直径40mm前後あり、色は白でピンポン玉に似ています。アオウミガメはそれよりひとまわり大きな卵(45～47mm)を産みます。

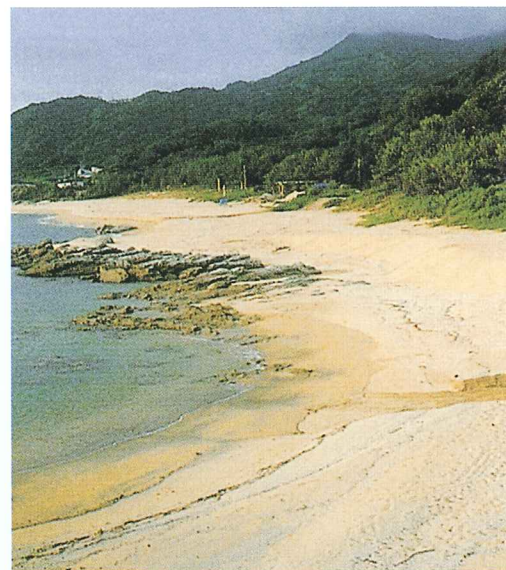
1回の産卵で100～140個くらい産み、同じカメが1シーズンに2～5回上陸をするため、500～600個の卵を産むものと推定されています。

④穴埋め(30分～40分)

産卵が終わったら後足を交互に使って砂を中へ入れます。穴が埋まってくると砂を押し固め、さらに砂をかぶせるという作業を数回に分けて行います。

⑤帰海(5～10分)

卵が完全に埋まったら、産卵した場所をカモフラージュするように砂を後方に飛ばしながらしばらく進みます。それから海へ帰って行きます。



アカウミガメの上陸密度が日本一高い屋久島いなか浜



アカウミガメの上陸



アカウミガメの産卵



アカウミガメの卵



地上に出てきた子ガメたち

ウミガメ産卵場付近図



ウミガメのふ化

産卵された卵は、砂の中で太陽の光と地面の熱であたためられ、だいたい60日ぐらいするとふ化します。

ふ化した100匹前後の子ガメは砂の中でもがくため、上部の砂が下に移動し子ガメたちはしだいに地上に登ってき

ます。登ってきた子ガメたちは、地上近くで夜になるのを待っていっせいに出てきます。ふ化してから地上へ出るまで2～3日かかります。このように地上に出るのは100匹ものカメの共同作業であり、数匹のカメではとても60cmもの砂の下から出てくることはできません。

ウミガメの観察にあたって

(1)ウミガメの産卵・ふ化の時期

ウミガメは産卵のため概ね5月～7月にかけて砂浜のある海岸に上陸し、卵は8月～9月にかけてふ化し、海へ帰ります。

(2)ウミガメの探し方

砂浜の山手側を、ライトをつけず、また大声を出さず静かに歩きながら、カメの足跡や上陸中のウミガメを探します。足跡を発見した場合は、その跡をたどってカメを見つけます。見つけたら、穴掘りを止め産卵を始めるまで、カメに近寄らないで静かに待ちましょう。産卵を始めてもなるべく遠くから静かに観察しましょう。

(3)注意事項

ウミガメは非常に警戒心が強く、光を照らしたり、驚かしたりすると上陸しなかったり、上陸しても卵を産まずに途中で海に戻ることがありますので、下記の点に注意しましょう。

- ア. 暗くなった海で騒がない。
- イ. 海岸でライトやマッチなどをむやみにつけない。(タバコも吸わないようにする)
- ウ. 波打ち際をむやみに歩き回らない。
- エ. 産卵場所にゴミ(空缶、ビニールなど)を捨てない。
- オ. 上陸中や穴掘り中のカメに近づかない。
- カ. 産卵中のカメにむやみに近づいたり、光をあてたりしない。
- キ. カメにむやみにさわらない。
- ク. ふ化時期には、ふ化の障害とならないように特に注意する。



アオウミガメ

アカウミガメとアオウミガメの見分け方

